



10月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7 入園イベント 10:00~	8	9
10	11	12	13	14 入園イベント 10:00~	15	16
17	18	19	20	21 入園イベント 10:00~	22	23
24 / 31	25 職業相談 10:00~	26 3B体操教室 10:00~	27	28 入園イベント 10:00~	29	30

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。ご了承ください。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など何でも相談してください。また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。

土居隣保館便り

10月号

発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356

館長の気づき

命をささえる見えない力

10数年前に読んだ、五木寛之さんの「大河の一滴」という本のなかに、生きているというだけでもいかに大切かと思うようになったというエピソードが書いてあったので紹介します。

「アメリカのアイオワ州立大学の生物学者のリットマー博士の実験の話です。

30数センチ四方で深さ50センチくらいの木箱のなかに砂を入れて、一本のライ麦の苗を植え、それに水をやりながら数ヶ月育てるのです。すると、その限られた砂を入れた木箱のなかで数ヶ月のあいだに、ひよろひよろとしたライ麦の苗が育ってきます。当然のことながら色つやもそんなによくないし、実もたくさんはついていない、貧弱なライ麦の苗が育ちます。

その貧弱なライ麦の苗を数ヶ月間生かし、それをささえるために、いったいどれほどの長さの根が30数センチ四方、深さ50センチの木箱のなかに張りめぐらされていたか、ということを実験的に測定するのです。根の先には根毛とか毛根とかいう目に見えないじつに細かなものがたくさん生えているのですが、そういうものは顕微鏡で細かく調べ、それを足していく。その結果、その30数センチ四方、深さ50センチという狭い箱の砂のなかにびっしり張りめぐらしていた根の長さの総延長数がなんと、1万1千2百キロメートルになります。

1本の麦が数ヶ月、自分の命をかりうじてささえる。そのためびっしりと木箱の砂のなかに1万1千2百キロメートルの根を細かく張りめぐらし、そこから日々、水とかカリ分とか窒素とかリン酸その他の養分を休まずに努力して吸いあげながら、それによってようやく1本の貧弱なライ麦苗がそこに命をながらえる。命をささえるというのは、実にそのような大変な営みなのです。

そうだとすれば、そこに育った、たいした実もついていない、色つやもそんなに良くないであろう貧弱なライ麦の苗に対して、お前、実が少ないじゃないかとか、背丈が低いじゃないかとか、色つやも良くないじゃないかとか、非難したり悪口を言ったりする気にはなれません。よく頑張つてそこまでのびてきたな、よくその命をささえてきたな、と、そのライ麦の根に対する賛嘆の言葉を述べるしかないような気がするのです。」と述べています。

1本のライ麦の命をささえる力から想像すると、私たち人間の命はもっともっと大きな力にささえられているといえます。多くの目に見えない力によって生かされています。何もせず、ただ生きているだけのように見えても、生きるために大変な努力をして頑張りを続けていることがわかります。

難しいことは分かりませんが、世の中の役に立っているとかいけないとかは関係なく、生きているそのことが尊いことだと納得する73歳の今日この頃です。



みんなで広げよう シトラスリボンプロジェクト

シトラスリボン from 四国中央市の活動展示がしこちゅ〜ホールで行われます。

期間 10月6日(水)
~11日(月)



~世界の子どもにワクチンを~

ベルマーク・ペットボトルのキャップ・使用済み切手の回収にご協力をお願いします

